

研究成果報告（要旨）
2023年7月

清水安三を通して見た日中民間交流

指導 青山 文啓 教授

国際学術研究科
グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム
221J1901
呉 春蘭

Research Paper (Abstract)
July 2023

Private Exchange between Japan and China as Seen through the Eyes of Yasuzo Shimizu

Wu Chunlan

221J1901

Master of Arts Program in Global Communication

International Graduate School of Advanced Studies

J.F.Oberlin University

Research Paper Supervisor: Professor Fumihiro Aoyama

目 次

第1章 問題提起および先行研究の課題	1
1.1 問題提起	1
1.2 先行研究	1
1.2.1 桜美林学園での研究(1997～現在)	1
1.2.2 桜美林学園以外の研究	2
1.2.3 先行研究の課題	3
第2章 清水安三(1891～1988)の幼少期と青年時代	5
2.1 幼少期から青年期へと(1891～1910)	5
2.2 同志社大学において(1910～1915)	6
第3章 崇貞学園時代	8
3.1 崇貞学園の創立(1921～1924)	8
3.1.1 創立の経緯	8
3.1.2 中国における日中民間交流	9
(1) 清水と魯迅との交友関係	9
(2) 『人民日報』(1979)に掲載された「清水安三との会見記」	10
(3) 人的ネットワーク上の主要人物	13
3.1.3 日中民間交流における清水と内山そして魯迅	13
3.2 崇貞学園の発展(1924～1945)	15
3.2.1 北京から米国留学へ	15
3.2.2 美穂夫人逝去(1933)	16
3.2.3 崇貞学園の成長および小泉郁子との再婚(1936)	16
第4章 帰国後(1946～1988)	18
4.1 桜美林学園の創立	18
4.1.1 桜美林学園創立の恩人賀川豊彦	18
4.1.2 桜美林学園運営の功労者清水郁子	18
4.2 なぜ清水は「日中国交正常化」(1972)以降に訪中しなかったのか	18
4.2.1 親族へのインタビュー	20
4.2.2 訪中しなかった理由	20
4.3 日本における日中民間交流	21
4.3.1 桜美林学園における中国関連科目および中国人教員	21
4.3.2 桜美林学園町田キャンパスにおける中国語名称の建物	22
第5章 清水の逝去(1988)とその精神的遺産の継承	23
5.1 清水に対する日本、中国、および米国オーバリン大学の評価	23
5.2 清水の思想の変容に関する考察	24
5.3 清水の精神的遺産の継承	24
5.3.1 桜美林中・高校と陳経綸中学(旧・崇貞学園)との交流(1986以後)	24
5.3.2 桜美林大学北京事務所の設立(2009)	25
5.3.3 中国要人への桜美林大学名誉博士号授与(2001以後)	25
まとめ 清水安三：日中民間交流の主要人物	26
参考文献	I
謝辞	IV

要 旨

本稿「清水安三を通して見た日中民間交流」は、北京の崇貞学園すうていがくえんと東京の桜美林学園おうびりんがくえんの創立者である清水安三先生しみずやすぞう（1891～1988、以下敬称略）の生涯にわたる日中民間交流における役割について、先行研究における課題に注目しながら考察するものである。

本稿では民間人である清水に焦点を当て、その人的交流について調べてみた。「日中国交正常化」（1972）より以前、中国に滞在していた1920～40年代にすでに清水は日本人と中国人との人的交流において極めて重要な役割を果たしていた。筆者はこのような人的交流の継続こそが日中両国の文化交流の土台を形成したと主張する。

以下、研究方法、研究成果について述べ、続いて各章の内容を順に要約する。

研究方法

文献調査、インタビュー調査に加えて、日本で未発表の中国語文献に分析を加えた。また、清水の親族への二度のインタビューで得た一次資料を活用した。

研究成果

1. 1917年～46年まで中国に滞在していた清水の事例から、1972年に「日中国交正常化」が実現する以前にも日中民間交流が行われていたことが分かる。
2. 清水の『復活の丘』（学園広報誌）、『石ころの生涯』（遺稿集）、『北京週報』や『読売新聞』への投稿文、および「清水安三との会見記」（以下、「会見記」）と題する『人民日報』の記事から、清水が魯迅ろしん（1881～1936、本名は周樹人、中国の小説家、翻訳家、思想家）や周作人しゅうさくじん（1885～1967、中国の翻訳家、散文家、魯迅の弟）など多岐にわたる中国の知識人とのネットワークを構築し、人的交流において極めて重要な役割を果たしたことが判明する。
3. 清水の嫡孫へのインタビューにより、1972年に中国政府から招待された際、清水が訪中しなかった理由の一端をうかがいしることができる。

第1章 問題提起および先行研究の課題

ここでは先行研究における課題と本稿の意義について述べる。

1. 清水の中国時代に焦点を当てた先行研究は日本語・中国語ともに少なく、ほとんどの研究が1946年以前のものである。本稿では1946年から1988年に清水が逝去するまでの中国の民間交流活動についても考察する。
2. 2023年7月現在、中国語の文献には、まだ日本語に翻訳されていないものがある。本稿は「会見記」を日本語で紹介するものである。
3. 清水は1946年の帰国後も日中の架け橋として民間交流に力を注いだが、彼のこうした役割はあまり知られておらず、この時期の研究は今まで見当たらない。

第2章 清水安三の幼少期と青年時代(1891～1915)

ここでは、清水が幼少期から青年時代にかけて多大な影響を受けた四人の人物を紹介する。一人目は、幼少期、清水が憧れた同郷の先人、江戸時代初期の儒学者で日本陽明学の開祖である中江藤樹である。二人目は、清水が中学時代に出会い、キリスト教の感化を受け、外国

伝道師という着想を得た、英語教師・宣教師・建築家という多様な才能があるヴォーリズである。三人目は、清水の誕生前年に他界したが、同志社大学在学中に清水が強い感銘を受けた、同志社大学の創立者であり、日本でキリスト教主義教育を実現した新島襄である。最後に紹介するのは、同志社大学で出会った後輩で、清水同様キリスト教プロテスタント会衆派教会に所属し、のちに清水の妻となる横田美穂である。

第3章 崇貞学園時代(1921~1945)

明治維新および日清戦争の勝利により、当時の日本の知識人やキリスト教関係者の間では清朝（中国）を蔑視する傾向があったが、日本仏教の発展に多大な貢献をした鑑真和上に刺激を受けた清水は「日本の鑑真」になるべく、宣教師として中国に渡った。前章に引き続き、中国における清水の思想形成に影響を与えた時代背景について述べる。

1921年、北京に「崇貞学園」を創立、「愛隣館」を開設し、キリスト教牧師、教育者、ジャーナリスト、および学校経営者を兼任していた清水は、さまざまな民間活動に積極的に取り組んだ。『北京週報』論説記者当時の清水が取り上げた記事に登場する中国人の数は、清水との親交が特に深い魯迅、李大釗、胡適、周作人、張伯苓などを含む26人にのぼる。

例えば「会見記」（約8000字）の中に登場する人名、および頻出する人名の数について調査した結果、「会見記」に頻出する人名の数は日本人23名、中国人10名、ロシア人1名であった。魯迅の名前は合計48回登場し、その内清水が語った回数は31回に及ぶ。筆者は名前の登場頻度にしたがって「清水安三が構築した人的ネットワークのイメージ図」を作成し、清水の中国における人的交流のネットワークを可視化した。こうした文献データおよび清水と魯迅との親交関係の分析により清水が1920~40年代における日中間ネットワークにおいて主要人物であったとみなすことができる。

また、クリスチャンであり、上海と神保町の内山書店店主の内山完造は、中国の小説家、翻訳家、思想家である魯迅の親しい日本人として知られているが、清水と内山、そして魯迅の交友関係について考察した結果、清水が日中民間交流における主要人物であることが示唆される。

本章の最後で、清水夫妻が1924~26年にわたって米国に留学することになった動機、留学資金の出資者、オーバリン大学を選択した理由について調査し、美穂夫人の逝去（1933）、そして小泉郁子との再婚（1936）について述べる。

第4章 帰国後(1946~1988)

本章では清水の中国引き揚げ後の日本での教育活動、中国との関わり、および日本における日中民間活動について紹介する。

1946年、清水は、著名な社会運動家、賀川豊彦に出会い、賀川の仲介で学園建設に必要な土地を得、桜美林学園を創立する。「桜美林学園の恩人」賀川が学園初代理事長を務めた。そして、学園経営の功労者と言える清水の再婚相手、清水郁子の協力や、桜美林高校野球部の夏の甲子園初出場初優勝（1976）により、学園は急速に拡大した。

「日中国交正常化」が実現した1972年、清水は中国政府から招待されたが訪中しなかった。その経緯および理由の一つとして、清水の親族へのインタビューで得た回答を紹介する。また、桜美林学園には中国関連科目も中国人教員も多く、桜美林学園町田キャンパスには数多くの中国語名称の建物があるという事例を紹介する。それは中国語および中国文化の教育に

力を注ぐという清水の建学理念と清水が帰国後も変わらず日本における日中民間交流に尽力していたことを示している。

第5章 清水の逝去（1988）とその精神的遺産の継承

ここでは清水の逝去後、日本、中国、米国オーバリン大学から受けた高い評価について紹介する。続いて生前の清水の思想変容を考察した結果、清水にとってキリスト教の影響が最も大きかったことがわかった。さらに、桜美林学園と中国との交流を深めた三つの事例、即ち、中国の陳経綸中学校（旧・崇貞学園）との交流、桜美林大学北京事務所の設置、当時の中国駐日本大使3名を含む中国要人への桜美林大学名誉博士号授与の事例から、清水の精神的遺産が桜美林学園に継承されてきたことを示した。

まとめ 清水安三：日中民間交流の主要人物

内山完造が経営している上海の内山書店は「日中文化交流のサロン」として高く評価された。太田哲男が2011年の著作『清水安三と中国』（p.66）に、「その内山は上海に渡り、やがて内山書店を開くことになる。そして、ここに魯迅をはじめとする人々が通ってくるようになり、『日中文化交流のサロン』のようになった」と述べる。清水の役割は一般的に余り知られていないが、1920年代に魯迅と内山を引き合わせるなどしていた清水は、内山の「日中文化交流のサロン」の実現に力添えしていたと思われる。

ここでは民間人である清水が、1920～40年代、日中民間交流ネットワークにおける主要人物であったことを本稿のまとめとする。最後に、筆者の今後の研究課題について述べた。

キーワード 清水安三 日中 民間 交流 魯迅

参考文献

日本語

書籍

- 内山完造『花甲録一日中友好の架け橋一』、平凡社東洋文庫、2011.
- 太田哲男『清水安三と中国』花伝社、2011.
- 学園史編纂室『学園史研究』創刊号、桜美林学園、2021.
- 学園史編纂委員会『桜美林学園 100 年史 図録編』、桜美林学園、2022.
- 桜美林学園チャプレン会『無我夢中—桜美林学園の創立者—清水安三の信仰と実践』新教出版社、2022.
- 清水賢一、神田道彦【編】『上海外国語学院語学研修感想文集 1986 年度』桜美林高等学校国際教育部、1986.
- 清水安三『崇貞学園一覧：『支那の友』特別号：安三先生の報恩思想』1936.
- 清水安三『崇貞学園一覧：『支那の友』特別号：安三先生の報恩思想』清水畏三【編】、2014.
- 清水安三『復活の丘』【複製版】桜美林学園同窓会、1955 年 8 月 1 日～1972 年 4 月 10 日.
- 清水安三『復活の丘』【複製版】桜美林学園同窓会、1972 年 7 月 1 日～1993 年 6 月 1 日.
- 清水安三『復活の丘』第 100 号、1972 年 4 月 10 日.
- 清水安三『石ころの生涯』桜美林学園、第五版、2009.
- 清水安三『日本の対中国政策を激烈批判：ジャーナリスト活動：「五四運動」から九年間（一九一九～二九）』清水畏三【編】、2012.
- 清水安三『支那新人と黎明運動』【複製版】清水畏三【編】、2015.
- 清水安三記念プロジェクト『清水安三関連書簡資料集』清水安三記念プロジェクト、2019.
- 清水安三記念プロジェクト『清水安三・郁子研究』創刊号～第 12 号、清水安三記念プロジェクト、2009～2020.
- 清水安三記念プロジェクト『清水安三の思想と教育実践』、清水安三記念プロジェクト、2001.
- 清水安三『希望を失わず』桜美林大学出版会、2020.
- 日本中国文化交流協会、日本経済新聞社編『中華人民共和国魯迅展』、1976.
- 山形正昭『ヴォーリズの建築 100 年』創元社、2009.
- 山崎朋子『朝陽門外の虹—崇貞女学校の人々』岩波書店、2003.
- 李恩民『転換期の中国・日本と台湾：一九七〇年代中日民間経済外交の経緯』御茶の水書房、2001.
- 李紅衛『清水安三と北京崇貞学園—近代における日中教育文化交流史—断面—』不二出版、2009.

論文

- 金丸裕一「中国における清水安三の記録について」、『立命館経済学』、第 68 巻第 2 号、2019. 7.
- 金丸裕一「中国における清水安三の記録について（補）」、『立命館経済学』第 68 巻第 3 号、2019. 9.
- 清水畏三『安三先生流の孔子論—＜清水安三思想＞の重要特色』p. 74.
- 丹野健一郎「中国交流の現状」、『清水安三・郁子研究』創刊号、清水安三記念プロジェクト、2019.
- 丹野健一郎「中国から見た清水安三と崇貞学園について」、『創立者たちの信仰と生き方—創立 60 周年記念』清水安三記念プロジェクト、2007、pp. 76-77.
- 堤稔子「清水安三とオーバリン大学—留学時代を中心に」、『清水安三の思想と教育実践』、清水安三記念プロジェクト、2001、pp. 63-75.
- 李恩民【選】、張利利【訳】「清水安三・中国語資料の翻訳」、『清水安三・郁子研究』第 12 号、清水安三記念プロジェクト、2020、pp. 155-158.

出典

- ・日本外務省ホームページ 1972 年 9 月 29 日締結された「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/nc_seimei.html (2022 年 10 月 22 日閲覧) .
- ・1978 年 8 月 12 日締結された「日本国と中華人民共和国との間の平和友好条約」https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/nc_heiwa.html (2022 年 10 月 23 日閲覧) .
- ・『外交青書 我が外交の近況』1980 年版(第 24 号)<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1980/s55contents.htm#index> (2022 年 10 月 23 日閲覧).
- ・大平総理大臣の中国訪問に関する共同新聞発表(1979 年 12 月 7 日北京)
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1980/s55-shiryu-10409.htm>
(2022 年 10 月 23 日閲覧).
- ・http://www.bjcjl.net/xxgk_1294/xxjj/北京市陳経綸中学校学校概要(2022 年 10 月 23 日閲覧).
- ・<https://www.cnki.net/kns/defaultresult/index> 中国知網清水安三(2022 年 10 月 23 日閲覧).
- ・近江聖人中江藤樹記念館 <https://www.city.takashima.lg.jp/soshiki/kyoikusomubu/bunkazaika/3/1/1238.html>(2023 年 6 月 9 日閲覧).
- ・隣人に寄り添える心を持つ国際人の育成を目指して～中国から始まった桜美林学園の歩み～https://www.obirin.jp/100th/shimizu_yasuzo.html(2022 年 10 月 23 日閲覧).
- ・学園史編纂委員会、桜美林学園 100 年史 pdf 版 <https://www.obirin.jp/100th/chronology/p.198>(2023 年 6 月 9 日閲覧).
- ・学園史編纂委員会、桜美林学園 100 年史 pdf 版学園の沿革(略年表) <https://www.obirin.jp/100th/chronology/mb9v5b0000004xbl-att/a1677470179675.pdf>(2023 年 6 月 9 日閲覧).
- ・<https://sakura-paris.org/dict/%E5%BA%83%E8%BE%9E%E8%8B%91/prefix/%E6%91%82%E7%90%86> デジタル広辞苑/摂理(2023 年 7 月 24 日閲覧).
- ・<https://ci.nii.ac.jp/ncid/AN00026293> 桜美林大學中國文學論叢(2023 年 4 月 13 日閲覧).
- ・<https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=2187> 盧溝橋事件(2023 年 4 月 13 日閲覧).
- ・<https://www.obirin.ac.jp/about/campus/machida.html> 町田キャンパス(2023 年 1 月 4 日閲覧).
- ・<https://cir.nii.ac.jp/books?q=内山完造%E3%80%80>(2023 年 6 月 9 日閲覧).
- ・桜美林大学名誉博士号授与者一覧 <https://www.obirin.ac.jp/about/honorary.html> (2023 年 6 月 19 日閲覧).
- ・<https://www.doshisha.ac.jp/information/history/neesima/neesima.html> 建学の精神と新島襄(2023 年 7 月 24 日閲覧).
- ・<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000180004> 日本大百科全書日本経済新聞(2023 年 7 月 24 日閲覧).
- ・<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000204350> 日本大百科全書文藝春秋(2023 年 7 月 24 日閲覧).
- ・<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=1001000233591> 日本大百科全書読売新聞(2023 年 7 月 24 日閲覧).

中国語

書籍

李大钊『李大钊选集』人民出版社、1959.

李恩民『中日民间经济外交』人民出版社、1997.

鲁迅『鲁迅日记』上下巻、人民文学出版社第 2 版、1976.

南京大学历史系『中国历代名人辞典』编写组【編】『中国历代名人辞典』江西人民出版社、1982.

清水安三『朝阳門外の清水安三——一个基督徒教育家在中日兩國的傳奇經歷』清水畏三【編】

- 李恩民、张利利、邢丽荃【译】社会科学文献出版社、2012.
- 清水畏三「感恩中国的牧师」、『朝阳门外的清水安三——一个基督徒教育家在中日两国的传奇经历』2012、pp. 2-4.
- 任云、刘敬文、孙久富『扶桑论评：在日华人学者的观察与思考』中国社会科学出版社、2016.
- 山崎朋子『朝阳门外的彩虹：崇贞女学校的人们』邢丽荃、吕莉、李尚波【译】上海人民出版社、2007.
- 闻黎明「从中国观点看清水安三」、『朝阳门外的清水安三——一个基督徒教育家在中日两国的传奇经历』2012、pp. 2-7.
- 张德庆主编『九秩回望：朝阳门外的彩虹』北京市陈经纶中学、2011.
- 中国社会科学院文学研究所【编】『唐弢纪念集』社会科学文献出版社、1993.
- 佐藤东洋士「清水安三的中国梦」、『朝阳门外的清水安三——一个基督徒教育家在中日两国的传奇经历』2012、pp. 2-6.

論文

- 李明非「清水安三先生与中国：几多鲜为人知的往事」、『外国问题研究第三期』、外国问题研究所、1992.
- 李少涌「中日文化差异下翻译的动态对等——『清水安三与中国』翻译实践报告」北京外国语大学、修士論文、2018.
- 闻黎明「清水安三先生的中国情结」、学苑中国社会科学院院报、2003.
- 王中忱「上帝女儿的国籍——读山崎朋子『朝阳门外的彩虹』」、『书城』p. 58.

パンフレット

- 陈经纶中学建校 100 周年册子（陳經綸中学校開校 100 周年パンフレット）.